

## 事業の背景・目的

静岡市は3,000m級の山々が連なる南アルプスから、最大深度2,500mの駿河湾まで、世界でも極めて珍しい高低差5,500mという自然環境を有する都市である。しかし、近年急速に外来種の侵入、拡大が進み、平成24年にはアルゼンチンアリが侵入し、防除には多大な労力と費用を要した。セアカゴケグモについては平成28年6月の発見以来、清水区で生息域が拡大している。このままではいずれ清水区だけでなく、市内全域に本種が拡大し、生態系に影響を及ぼすと考えられる。本種の生息拡大を防止するためには、専門業者による効果的・効率的な防除を行うとともに、市民への注意喚起を継続することが必要である。



## 事業の内容

事業① セアカゴケグモ防除業務  
10月に清水区の高密度エリアにて業務委託による調査及び薬剤散布を実施。生息痕の多かった14地点については重点的に薬剤散布を実施した。公共施設や公道などについては職員による防除を6回実施。



事業② アルゼンチンアリ防除業務  
清水区長崎地区で7月、11月に業務委託によるモニタリング調査を実施。粘着用トラップを使用し、36カ所各2回、調査を行った。在来アリの種の確認も同調査で実施した。

事業③ 普及啓発・協力要請依頼  
セアカゴケグモが発見された地域でのチラシ配布、広報紙への記事掲載、ホームページでの情報発信。  
外来生物の出前講座6回実施。



## 得られた成果

### 事業の成果

- 事業①・業務委託及び職員による防除によって成体及び卵のうの駆除を実施。委託及び職員による調査では相当数の成体、卵のうが発見され、生息範囲の拡大が懸念されることから業務委託での業務は高密度エリアでの防除から拡大防止のための業務への見直しを行う。
  - ・通報者、職員による調査により生息状況の更新が行えた。
- 事業②・本種の生息は確認できなかった。・令和元年の根絶宣言時には在来種の確認はわずか7種であったが、令和4年度の調査では17種を確認し、在来種の増加が確認できた。
- 事業③・出前講座、総合学習で題材として取上げられ、環境問題の一つとして認知された・通報者自ら防除を実施してもらうことが出来た。

### 今後の見通し、展望

- 事業①・業務委託による薬剤散布の効果を検証するため、継続的なモニタリングを実施する必要がある。
  - ・本年度調査では高密度生息域の防除を実施したが、本種の生息域の拡大防止のため防除と並行して拡大防止策を講じる必要があるため、事業の結果を踏まえ、専門家の指導、助言を仰ぎながら効果的な事業を実施していく。
- 事業②・在来アリの増加が顕著に確認でき、生態系の回復が見られるが継続的にモニタリングは実施する。回数や手法については見直しを行う。
- 事業③・発見情報や住民による防除は行われている一方で、周知が十分に行われていないため、広報紙、ホームページ等の情報発信だけでなく、関連施設や自治会、教育施設に対し注意喚起、防除協力を直接的に行う機会を作っていく。